

基礎分野

(外国語) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	乱獅子 直由美				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	東西医学の融合が進み、医療の世界にも国際化の波が押し寄せる中、医学英語の必要性を踏まえ、医療英語の知識を身につけ、医療専門家としてのコミュニケーション(読む、書く、話す)能力の習得を目的とする。 前期、後期を通して医学と医療の基本である人体の主要な組織の構造と機能を中心に記述された文献を読解しながら、医学英単語並びに英文解釈を学習する。また、医療現場での英会話を中心とした会話練習に加えて、施術時の、簡単な接客英会話を学習する。				
教 科 書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標 1	医学英単語の正しい発音、意味、構成を修得する。
目標 2	人体における各器官、組織の構造と機能の概要を修得する。
目標 3	基本的な構文、文法、イディオム(熟語)を理解し、読解力を身に着ける。
目標 4	医療現場での基本的な英会話並びに関連表現を修得する。
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験						
前 期				前 期		
試験成績	7 0 %			7 0 %		
平常点	1 0 %	算出方法	予習、復習等から算出	1 0 %	算出方法	予習、復習等から算出
出席点	1 0 %	算出方法	全出席を 10 としての出席率	1 0 %	算出方法	全出席を 10 としての出席率
その他	1 0 %	算出方法	小テストの成績から算出	1 0 %	算出方法	小テストの成績から算出
試験日	7 / 2 3			1 2 / 1 0		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☐ 無 ☒
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容		
回数	内容	備考
1	オリエンテーション(授業概要、進め方) Phonetic Sign(発音記号)学習、自己紹介(英語)	
2	The Human Body(人体) 体の各部名称及び新出単語の発音と意味 英会話 Unit1(自己紹介に関して) リスニングと意味 接客会話 1, 2	英単語調べと本文和訳
3	The Human Body(人体) 身体は何から構成されているか？ 英会話 Unit1(自己紹介に関して) リスニングと意味 ペア練習 接客会話 3, 4	英単語調べと本文和訳
4	The Human Body(人体) 細胞について 英会話 Unit1(自己紹介に関して) 関連表現 接客会話 5, 6	英単語調べと本文和訳
5	The Human Body(人体) 組織、器官、体系について と 復習問題 英会話 Unit 2(あいさつし、相手の具合を聞く) リスニングと意味 接客会話 7, 8	英単語調べと本文和訳
6	英単語小テスト(The Human Bodyに関する) The Digestive System(消化器系) 消化器官の名称及び新出単語の発音と意味 英会話 Unit 2(あいさつし、相手の具合を聞く) ペア練習	英単語小テスト勉強
7	The Digestive System(消化器系) 歯と唾液腺の形状と働き 食道と胃の形状と働き 英会話 Unit 2(あいさつし、相手の具合を聞く) 関連表現 接客会話 9, 10	英単語調べと本文和訳
8	The Digestive System(消化器系) 小腸の形状と働き 英会話 Unit 2(あいさつし、相手の具合を聞く) 関連表現 接客会話 11, 12	英単語調べと本文和訳
9	The Digestive System(消化器系) 大腸の形状と働き と 復習問題 英会話 Unit 5(個人情報の聞き取り、管理に注意) リスニングと意味	英単語調べと本文和訳
10	英単語小テスト(The Digestive Systemに関する) The Respiratory System(呼吸器系) 呼吸器官の名称及び新出単語の発音と意味 英会話 Unit 5(個人情報の聞き取り、管理に注意) リスニングと意味 ペア練習	英単語小テスト勉強
11	The Respiratory System(呼吸器系) 肺の形状、位置等 英会話 Unit 5(個人情報の聞き取り、管理に注意) 関連表現(基本的な質問) 接客会話 13, 14	英単語調べと本文和訳
12	The Respiratory System(呼吸器系) 肺の内部の構造、 呼息と吸息に関して 英会話 Unit 5(個人情報の聞き取り、管理に注意) 関連表現(具体的な質問) 接客会話 15, 16	英単語調べと本文和訳
13	The Respiratory System(呼吸器系) 肺胞の構造と働き と 復習問題 前期期末試験範囲の説明及び試験範囲の総復習	前期配付資料持参
14	前期期末試験対策 前期期末試験練習問題プリント 解答合わせ	
15	前期期末試験返却 解答合わせと解説	
16	The Skeletal System(骨格系) 各骨の名称及び新出単語の発音と意味 英会話 Unit 7(相手を見て対応) リスニングと意味 接客会話 17, 18	
17	The Skeletal System(骨格系) 骨組織の構造、骨の形状、骨格の種類等 英会話 Unit 7(相手を見て対応) ペア練習 接客会話 19, 20	英単語調べと本文和訳
18	The Skeletal System(骨格系) 復習問題・ 関節とはどういうものか？ 関節の種類	英単語調べと本文和訳

	英会話 Unit 7(相手を見て対応) 関連表現 接客会話 21, 22	
19	The Skeletal System(骨格系) 可動関節について 関節の機能、関節の疾患 英会話 Unit 7(相手を見て対応) 関連表現 接客会話 23, 24	英単語調べと本文和訳
20	The Skeletal System(骨格系) 医学英単語の複数形に関して説明・復習問題 英会話 Unit 10(行為をうながす言葉かけ) リスニングと意味 接客会話 25, 26	
21	英単語小テスト(The Skeletal Systemに関する) The Muscular System(筋肉系) 各筋肉の名称及び新出単語の発音と意味 英会話 Unit 10(行為をうながす言葉かけ) ペア練習	英単語小テスト勉強
22	The Muscular System(筋肉系) 筋肉に関する概略、筋肉の種類と特徴 英会話 Unit 10(行為をうながす言葉かけ) 関連表現 接客会話 27, 28	英単語調べと本文和訳
23	The Muscular System(筋肉系) 腱、靱帯の特徴について 英会話 Unit 10(行為をうながす言葉かけ) 関連表現 接客会話 29, 30	英単語調べと本文和訳
24	The Muscular System(筋肉系) 筋肉による体内、体外の運動 と 復習問題 英会話 Unit 18(受付や窓口での対応は確認しながら) リスニングと意味	英単語調べと本文和訳
25	The Circulatory System(循環系) 血管の名称及び新出単語の発音と意味 英会話 Unit 18(受付や窓口での対応は確認しながら) ペア練習 接客会話 31, 32	
26	The Circulatory System(循環系) 心臓、動脈、静脈について 英会話 Unit 18(受付や窓口での対応は確認しながら) 関連表現 接客会話 33, 34, 35	英単語調べと本文和訳
27	The Circulatory System(循環系) 血液循環と血液の成分について 英会話 Unit 18(受付や窓口での対応は確認しながら) 関連表現	英単語調べと本文和訳
28	The Circulatory System(循環系) 復習問題 後期期末試験範囲の説明及び試験範囲の総復習	後期配布資料持参
29	後期期末試験対策 後期期末試験練習問題プリント 解答合わせ	
30	後期期末試験返却 解答合わせと解説	

その他の事項

医学英単語並びに医療に関する文章はやや複雑で発音等も難しいことも多いので、必ず辞書(電子辞書でも OK)を準備して下さい。

授業で扱う配布資料は必ず毎回持参して下さい。予習、復習はしっかりとして下さい。

英会話練習に関しては、相手をみて、はっきりと発音し、意思が伝わるよう練習しましょう。

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	5 0	実施時間数	5 0
担当教員	奥村 清和				
授業形態	講 義	教 室	基礎医学実習室		
授業目的	基礎医学である解剖学を学習し習得することにより、他の科目や臨床への応用が期待できる。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、解剖学 第2版、医歯薬出版株式会社、2 0 0 6 年				

具体的な到達目標	
目標 1	人体各部の形や構造を習得する
目標 2	1 年次未習得の系統を学習する
目標 3	各系統をつなぎ合わせて理解を深める
目標 4	他の科目や臨床への応用

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	8 / 2 6	1 2 / 1 6	

＊ 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	第6章 生殖器系、男性生殖器	
2	男性生殖器、女性生殖器	
3	発生、第7章 内分泌系、下垂体、松果体	
4	甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓	
5	第8章 神経系、総論	
6	中枢神経系、脊髄	
7	延髄、橋、中脳、小脳、間脳	
8	大脳	
9	脳室系、髄膜、脳の血管	
10	伝導路	
11	伝導路、末梢神経系、脳神経と脊髄神経の概要	
12	脊髄神経の分布先、自律神経系	
13	第10章Ⅲ. 体幹の神経、第10章Ⅳ. 上肢の神経	
14	前期末試験 答え合わせと解説	
15	上肢の神経	
16	第10章Ⅴ. 下肢の神経	
17	下肢の神経、第10章Ⅵ. 頭頸部の神経	
18	頭頸部の神経	
19	頭頸部の神経	
20	第9章 感覚器、皮膚	
21	皮膚、視覚器	
22	視覚器	
23	平衡聴覚器	
24	平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器	
25	後期末試験 答え合わせと解説	
その他の事項		
所定の教科書を使用してその章の順にしたがって授業を進めていきます。生徒のみなさんに教科書を読んでもらってそれに対して説明、解釈を加えていきます。また、必要に応じて自作のスライドをみてもらいながらの説明もあります。		

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	5 0	実施時間数	5 0
担当教員	奥村 清和				
授業形態	講 義	教 室	基礎医学実習室		
授業目的	基礎医学である生理学を学習し習得することにより、他の科目や臨床への応用が期待できる。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、生理学 第3版、医歯薬出版株式会社、2 0 1 4 年				

具体的な到達目標	
目標 1	人体各部の機能を習得する
目標 2	1 年次に習得した系統をつなぎあわせてより理解を深める
目標 3	他の科目や臨床に応用できるようにする

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	100%		100%		
平常点	算出方法		算出方法		
出席点	算出方法		算出方法		
その他	算出方法		算出方法		
試験日	7 / 1 8		1 1 / 2 1		

＊ 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☐	無 ☒
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	第 11 章 筋、筋の構造と機能	
2	筋の収縮の仕組み	
3	筋のエネルギー供給の仕組み、心筋と平滑筋	
4	第 12 章 運動、骨格筋の神経支配	
5	運動の調節、脊髄レベルでの調節	
6	脳幹での調節	
7	小脳、大脳辺縁系での調節	
8	大脳による調節	
9	第 13 章 感覚、感覚の一般	
10	体性感覚、内臓感覚	
11	特殊感覚、嗅覚と味覚	
12	聴覚	
13	前期末試験 答え合わせと解説	
14	平衡覚、視覚	
15	視覚	
16	第 14 章 生体の防御機構、免疫、液性因子	
17	免疫反応の分類、炎症とアレルギー	
18	第 15 章 身体活動の協調	
19	概日リズム	
20	復習	
21	復習	
22	復習	
23	復習	
24	復習	
25	後期末試験 答え合わせと解説	
その他の事項		
授業概要 所定の教科書を使用してその章の順にしたがって授業を進めていきます。生徒のみなさんに教科書を読んでもらってそれに対して説明、解釈を加えていきます。また、必要に応じて自作のスライドをみてもらいながらの説明もあります。		

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単位	必要時間数	50	実施時間数	50
担当教員	金井 優也				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	1 年生では人体の構造や機能の学習をしていきました。2年生になってこれから学ぶ「病理学概論」は、これらの基礎医学系科目と、今後登場する臨床医学系科目とをリンクさせる重要な役割を担う科目となります。そこで、この授業の目的として、人体の疾病についての原因や病態などが考察できる、基礎・基本的な病理学的知識を習得することになります。				
教 科 書	滝澤登一郎・畠山茂、病理学概論 第2版、医歯薬出版株式会社、2004 年				

具体的な到達目標	
目標 1	病態の成り立ちを説明することができる。
目標 2	病態の経過を説明することができる。
目標 3	病態の転帰を説明することができる。
目標 4	病態の症状の機序を説明することができる。
目標 5	国家試験レベルの問題を解くことができる。
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	100%		100%		
平常点	算出方法		算出方法		
出席点	算出方法		算出方法		
その他	算出方法		算出方法		
試験日	7/19		11/21		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	ガイダンス、第1章病理学とはどのような学問か、第2章疾病の基本的な考え方を学ぶ。	
2	第3章病因 内因Ⅰ：内因に分類される素因・遺伝・内分泌疾患についての機序を学ぶ。 また関連する先天性異常の内容を学ぶ。	
3	第3章病因 内因Ⅱ：内因に分類される免疫・心因性疾患について学ぶ。 関連する第9章の免疫異常の液性免疫と細胞性免疫の違いについて学ぶ。	
4	第3章病因 外因Ⅰ：外因に分類される供給障害・物理的病因の機序と種類について学ぶ。 また化学的病因の接触による障害と中毒について学ぶ。	
5	第3章病因 外因Ⅱ：化学的病因の医原病、環境汚染・生物学的病因(細菌・リケッチア)の病原菌について学ぶ。	
6	第3章病因 外因Ⅲ：生物学的病因(クラミジア・ウイルス・プリオン・真菌・動物性寄生体)について学ぶ。また小児疾患の総論を学ぶ。	
7	第4章循環障害 循環障害に分類される充血・うっ血・貧血・虚血・出血・血栓症・塞栓症の病態を学ぶ。	
8	第4章循環障害 循環障害に分類される梗塞・水腫・浮腫・脱水症の病態を学ぶ またショックについての概念について学ぶ。	
9	第5章退行性変性 退行性の概念や萎縮・変性についての機序や原因を学ぶ。	
10	第5章退行性変性 変性・壊死と死の機序を学ぶ。	
11	第6章進行性病変 肥大と過形成、再生の原因や機序について学ぶ。	
12	第6章進行性病変 化生・移植の種類・機序を学ぶ。創傷治癒の修復過程。異物の処理方法を学ぶ。	
13	前期定期テストまでの範囲の復習。講義をした内容の関連問題を解く。	
14	前期定期テストの返却・問題の解説。 第7章炎症：炎症の概念を学び、機序や経過を学ぶ。	
15	第7章炎症：炎症の分類(変質性炎・滲出性炎)の違いを学ぶ。	
16	第7章炎症：炎症の分類(増殖性炎・特異性炎)を学び、特に結核・梅毒についての機序、経過、治療は詳しく学ぶ。	
17	第8章腫瘍 腫瘍Ⅰ：腫瘍の概念、腫瘍の形態と構造、良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを総合的に学ぶ。	
18	第8章腫瘍：腫瘍Ⅱ：腫瘍の種類、腫瘍の発生機序を学ぶ。	
19	第8章腫瘍：腫瘍Ⅲ：腫瘍の分類、腫瘍発生原因を学ぶ。	
20	第9章免疫異常・アレルギー：免疫の基礎、免疫に関わる用語、細胞の働きを学ぶ。	
21	第9章免疫異常・アレルギー：アレルギーの概要、アレルギーの分類・特徴を学ぶ。	
22	第9章免疫異常・アレルギー：免疫不全(先天性免疫不全・後天性免疫不全)の概要を学び自己免疫異常の機序を学ぶ。	
23	第10章先天性異常総論：先天性異常の総論・奇形・遺伝性疾患・染色体異常について学ぶ。	
24	後期定期テストまでの範囲の復習。講義をした内容の関連問題を解く。	

25 後期定期テストの返却・問題の解説
病理学全体の復習

その他の事項

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	5 0	実施時間数	5 0
担当教員	村上 朱保				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	あんまマッサージ指圧師、はり師、きゅう師は、臨床治療を安全かつ効果的に実践する必要がある、西洋医学においても適切な治療法を理解し、主たる症候に精通しておくことが必要とされる。誤った判断に基づいた医療を行えば効果が無いばかりか、かえって有害事象が発生する可能性も考えられる。そのため本授業ではあんまマッサージ指圧師、はり師、きゅう師の患者との医療面接とその技法、診察法、各種検査、症候について学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、臨床医学総論、医歯薬出版株式会社、２００９年				

具体的な到達目標	
目標 1	西洋医学の診察の意義と内容、および用語を説明することができる。
目標 2	西洋医学の医療面接、視診、触診、打診、聴診、神経系の診察についてその意義と方法を説明することができる。
目標 3	生命徴候について説明することができ、その結果の示す病態、および可能性のある疾患を判別することができる。
目標 4	全身および身体局所の視診、触診、打診、聴診の結果の示す病態、および可能性のある疾患を判別することができる。
目標 5	神経系の診察の意義、内容とその方法を説明することができ、その結果の示す病態および可能性のある疾患を判別できる。
目標 6	運動機能検査の意義、内容とその方法を説明することができ、その結果の示す病態および可能性のある疾患を判別できる。
目標 7	救急時の診察方法、および救急処置について説明することができる。
目標 8	画像診断を含む臨床検査の意義、内容を説明することができ、その結果の示す病態、可能性のある疾患を判別できる。
目標 9	主な症状の病態生理、分類、原因疾患、検査、鑑別診断、治療について説明することができる。
目標 10	治療の意義と種類、内容について説明することができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	80%		80%		
平常点	20%	算出方法	20%	算出方法	小テストの正答率を 20 点に
					乗じて算出する
出席点	0%	算出方法	0%	算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日	7 / 1 8		1 1 / 2 1		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	臨床検査技師、はり師きゅう師の免許を有する。臨床検査技師として病院で10年9か月、鍼灸師として6年間の臨床経験あり。また中国の大学病院において中医師インターンとして5年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	西洋医学における主な症状や診察法、または臨床検査について、その内容や意義、鑑別方法を説明する。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	オリエンテーション. 第1章、第2章. 医療面接の意義、方法、カルテの記録内容と意義	
2	第2章各種診察法の意義と注意点. 第3章生命徴候の診察. 体温、脈拍、血圧	
3	第3章生命徴候診察の診察. 呼吸. 第4章全身の診察. 顔貌、顔色、精神状態の異常所見	
4	第4章全身の診察. 言語～歩行の異常所見の種類、意義、病態や疾患との関係	
5	第4章全身の診察. 皮下粘膜～その他一般状態の異常所見の種類、意義、疾患との関係	
6	第5章局所の診察. 頭部～耳の異常所見の種類、意義、病態や疾患との関係	
7	第5章局所の診察. 口腔～肺胸膜の異常所見の種類、意義、病態や疾患との関係	
8	第5章局所の診察. 心臓～腹部の異常所見の種類、意義、病態や疾患との関係	
9	第5章局所の診察. 腹部～上肢の変形の異常所見の種類、意義、病態や疾患との関係	
10	第6章神経系の診察. 下肢の変形～感覚検査法の種類や検査方法、病態や疾患との関係	
11	第6章神経系の診察. 反射検査～髄膜刺激症状の種類や検査方法、病態や疾患との関係	
12	第7章運動機能検査. 運動麻痺～不随意運動の種類や障害部位、病態や疾患との関係	
13	前期期末試験の解説および前期に学習した内容の復習	
14	第7章運動機能検査. 各種徒手検査法の方法、病態、疾患との関係	
15	第7章運動機能検査. 各種徒手検査法の方法、病態、疾患との関係、第8章救急時の診察	
16	第9章臨床検査法. 尿検査、便検査の種類、異常所見と意義、疾患との関係	
17	第9章臨床検査法. 髄液検査、血液検査の種類、異常所見と意義、疾患との関係	
18	第9章臨床検査法. 血液検査の種類、異常所見と病態、疾患との関係	
19	第9章臨床検査法. 生理学検査、画像診断の種類. 第10章主な症状の診察法頭痛	
20	第10章主な症状の診察法. 顔面痛～息切れの分類と病態生理、鑑別、疾患との関係	
21	第10章主な症状の診察法. 動悸～多尿の分類と病態生理、鑑別、疾患との関係	
22	第10章主な症状の診察法. 浮腫～のぼせ冷えの分類と病態生理、鑑別、疾患との関係	
23	第10章主な症状の診察法. 不眠～意識障害の分類病態生理、鑑別、疾患との関係	
24	第11章第12章治療法の種類と意義、評価法の種類	
25	後期期末試験解説と後期に学習した内容の復習	
その他の事項		

専 門 分 野

(臨床医学各論Ⅰ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	4 0	実施時間数	4 0
担当教員	中 詩帆				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師として患者を診察し治療可能かどうかの判断を行う際、正しく西洋医学的知識を持つことにより、患者の訴えや身体所見から病名を推測する事ができるようになる。 そのため、代表的な疾患についての疫学や病態、治療法を学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、臨床医学各論、医歯薬出版株式会社、２００４年				

具体的な到達目標	
目標 1	西洋医学の疾患について成因、病態生理について説明できる
目標 2	西洋医学の疾患について西洋医学の観点において診断方法や治療方法について説明できる
目標 3	
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期				後 期	
試験成績	80%				
平常点	算出方法		算出方法		
出席点	算出方法		算出方法		
その他	20%	算出方法	小テスト	算出方法	
試験日	9 / 1 0				

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☐	
教員の実務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	ガイドランス、関節炎、可動域異常について成因や症状、診断などを学ぶ	
2	五十肩、変形性関節症について成因や症状、診断などを学ぶ	
3	骨粗鬆症、くる病、骨腫瘍について成因や症状、診断などを学ぶ	
4	筋肉炎、腱鞘炎について成因や症状、診断などを学ぶ	
5	先天性股関節脱臼、斜頸、側弯症について成因や症状、診断などを学ぶ	
6	椎間板ヘルニア、後縦靱帯骨化症、脊椎分離症について成因や症状、診断などを学ぶ	
7	変形性脊椎症、腰痛症、頸椎捻挫について成因や症状、診断などを学ぶ	
8	脊髄損傷、骨折、脱臼、捻挫について成因や症状、診断などを学ぶ	
9	スポーツ外傷について成因や症状、診断などを学ぶ	
10	その他の整形外科疾患（前十字靱帯損傷、半月板損傷など）についての成因や症状、診断などを学ぶ	
11	関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症についての成因や症状、診断などを学ぶ	
12	ベーチェット病、多発性筋炎、皮膚筋炎、多発動脈炎についての成因や症状、診断などを学ぶ	
13	食物アレルギー、血清病について成因や症状、診断を学ぶ	
14	子宮頸癌、子宮体癌、乳癌、更年期障害、月経異常について成因や症状、診断について学ぶ	
15	接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、湿疹、円形脱毛症について成因や症状、診断を学ぶ	
16	結膜炎、角膜炎、麦粒腫、白内障、緑内障、眼精疲労について成因や症状、診断を学ぶ	
17	メニエール病、中耳炎、突発性難聴、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎について成因や症状、診断を学ぶ	
18	問題演習	
19	試験解説。損傷概論、ショック、外科的感染症、救急処置、心肺蘇生術について用語の概念や成因病態生理について学ぶ	
20	全身麻酔、局所麻酔の種類や方法適応について学ぶ	
その他の事項		
授業資料を配りますが、基本的に教科書を用いて授業を進めていきます。 資料は自己管理でお願いします。紛失時は各自コピー等で対応して下さい。		

専 門 分 野

(臨床医学各論Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	後 期
単 位 数	2	必要時間数	4 0	実施時間数	4 0
担当教員	中 詩帆				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師として患者を診察し治療可能かどうかの判断を行う際、正しく西洋医学的知識を持つことにより、患者の訴えや身体所見から病名を推測する事ができるようになる。 そのため、代表的な疾患についての疫学や病態、治療法を学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、臨床医学各論、医歯薬出版株式会社、２００４年				

具体的な到達目標	
目標 1	西洋医学の疾患について成因、病態生理について説明できる
目標 2	西洋医学の疾患について西洋医学の観点において診断方法や治療方法について説明できる
目標 3	
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	80%			
平常点	算出方法		算出方法	
出席点	算出方法		算出方法	
その他	20%	算出方法	小テスト	算出方法
試験日	2 / 4			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の実務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	脳血管疾患概論、脳梗塞について、概要や成因、病態生理、治療について	
2	一過性脳虚血発作、脳出血、クモ膜下出血についての成因や病態生理、治療について	
3	髄膜炎（ウイルス、細菌、結核、真菌）についてそれぞれの成因や診断、治療について	
4	神経梅毒、ポリオ、神経膠腫、下垂体腺腫についての成因や病態生理、治療について	
5	神経鞘腫、転移性脳腫瘍、脊髄腫瘍、転移性脳腫瘍についての成因や病態生理、治療について	
6	脊髄腫瘍、パーキンソン病、ハンチントン舞蹈病の成因や病態生理、治療について	
7	脳性小児麻痺、ウィルソン病、脊髄小脳変性症の成因や病態生理、治療について	
8	脊髄空洞症、進行性核上性麻痺の成因や病態生理、治療について。痴呆の定義について	
9	アルツハイマー病およびアルツハイマー型老年認知症、脳血管型認知症、ピック病の成因や病態生理、治療について	
10	重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー、筋強直性ジストロフィーの成因や病態生理、治療について	
11	筋萎縮性側索硬化症、ギランバレー症候群、圧迫性および絞扼性ニューロパシーの成因や病態生理、治療について	
12	末梢性顔面神経麻痺、ラムゼイハント症候群の成因や病態生理、治療について	
13	三叉神経痛、肋間神経痛、坐骨神経痛、後頭神経痛の成因や病態生理、治療について	
14	緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛の成因や病態生理、治療について	
15	クッシング病、先端巨大症、巨人症、成長ホルモン分泌不全性低身長症、尿崩症についての成因や病態生理、治療について学ぶ	
16	甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、慢性甲状腺炎、についての成因や病態生理、治療について学ぶ	
17	副腎皮質機能亢進症、原発性アルドステロン症、副腎皮質機能低下症、褐色細胞腫についての成因や病態生理、治療について学ぶ	
18	問題演習	
19	問題解説、神経症、統合失調症についての成因や病態生理、治療について学ぶ	
20	うつ病、アルコール依存症、心身症、神経性食欲不振症、神経性過食症についての成因や病態生理、治療について学ぶ	
その他の事項		
授業資料を配りますが、基本的に教科書を用いて授業を進めていきます。 資料は自己管理で紛失時は各自コピー等で対応して下さい。		

専 門 分 野

(東洋医学概論Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	上田恵介				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	東洋医学の知識を臨床実習、あはき実技に活用するために、臨床医学各論、総論に並行して“疾病を東洋医学的に生理、病理の観点でどうとらえるか”、考えを共有し活かすことを目的とする。				
教 科 書	教科書検討小委員会著、新版 東洋医学概論、医道の日本社、２０１５年				

具体的な到達目標	
目標 1	九鍼の種類、形状について説明できる。
目標 2	奇経八脈の作用、役割、病態について説明できる。
目標 3	陰陽学説、五行学説、五行の性質を説明できる。色体表を書く。
目標 4	四診を用いて判断する。舌診、脈診を説明できる。
目標 5	問診と病態を関連させることができる。
目標 6	弁証方法を列挙できる。弁証方法の違いを説明できる。
目標 7	気血津液について原因、症状を説明できる。
目標 8	十二経絡病証、是動病、所生病から経脈の異常を判断できる。
目標 9	臓腑病証の区分を理解し説明できる。
目標 10	複合病証、多臓腑にまたがる病証の発生と原因、症状を述べることができる。
目標 11	治療原則、（治則、治法八法、生理由質の虚実に対する治法、臓腑の病証、外感病に対する治法）を列挙できる。
目標 12	選穴の原則、特定穴を書ける。
目標 13	疾患を東洋医学的に検討し治療方法を導くことができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	70 点		80 点		
平常点	0 点	算出方法	0 点	算出方法	
出席点	0 点	算出方法	0 点	算出方法	
その他	30 点	算出方法	20 点	算出方法	提出物、小テスト
試験日	8/28		12/11		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	4/10	授業ガイダンス、東洋医学のしくみ	
2	4/17	九種類の鍼	
3	4/24	奇経八脈の流れ、作用、病態	
4	5/8	経脈・絡脈・皮部・経筋	小テスト前—1
5	5/15	陰陽学説、五行学説、五行の性質、色体表	
6	5/22	舌診について映像を通して形態、病態	
7	5/31（金）	望診・聞診：舌診、五行を用いた診断法、臨床上の扱い	
8	6/5	問診：臨床に即した問診方法、東洋医学の所見から病態	小テスト前—2
9	6/12	問診：臨床に即した問診方法、西洋医学の所見から病態	
10	6/19	切診：脈状診、六部定位脈診、三部九候診、人迎脈口診	
11	6/26	『難経』の腹診、『傷寒論』の腹診、募穴診、夢分流腹診	
12	7/3	弁証方法の種類、八綱弁証	小テスト前—3
13	7/10	気血津液について原因、症状	
14	7/17	十二経絡病証、是動病、所生病	課題提示
15	7/24	六淫弁証	
16	7/31	六経弁証、三陰三陽病	小テスト前—4
17	9/4	試験解説	
18	9/11	衛気営血弁証、三焦弁証	
19	9/18	臓腑病証（肝・胆・心・小腸）	
20	9/25	臓腑病証（脾・胃・肺・大腸）	
21	10/2	臓腑病証（腎・膀胱）	小テスト後—1
22	10/9	複合病証、多臓腑にまたがる病証の発生と原因、症状（肝脾不和、心肝血虚）	
23	10/16	複合病証、多臓腑にまたがる病証の発生と原因、症状（心肝火旺、心脾両虚）	
24	10/23	多臓腑にまたがる病証の発生と原因、症状（心腎陽虚、心腎陰虚、心腎不交）	
25	10/30	多臓腑にまたがる病証の発生と原因、症状（脾腎陽虚、その他）	
26	11/6	治療原則、治則	冬期課題提示
27	11/13	治法八法、生理由質の虚実に対する治法	
28	11/27	臓腑の病証、外感病に対する治法	
29	12/4	選穴の原則、特定穴、その他	
30	12/18	試験解説	

その他の事項

課題 前期提出物：課題提出日 9/4 試験開始前まで
後期提出物：課題提出日 12/11 試験開始前まで

担当教員からメッセージ

2年生では臨床実習で患者さんへの説明が必要になります。東洋医学概論Ⅱは、患者さんの訴える病態を東洋医学的に考え、説明する為の力を付ける機会として位置付けています。

専 門 分 野

(臨床診断学) シラバス

京都仏眼鍼灸治療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	9 0	実施時間数	9 4
担当教員	棟居清峰 / 下宮啓佑 / 舟木宏直				
授業形態	実 習	教 室	金曜日：第3実技室（1 / 16～臨床実習室） / 木曜日：臨床実習室		
授業目的	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師が治療を行う際には、患者の状態を正確に把握し、その状態に応じて適切な治療方針を検討し、実践しなければならない。よって患者の状態を正確に把握することは、効果的な治療につながる。また、状態によってはあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の診察や治療よりも、病院等への紹介が優先されることもある。そのため、本授業は患者の状態を把握するための東洋医学的・西洋医学的診察方法を体得し、得られた情報から患者の疾病の状態を推測することができるようになることを目的とする。				
教科書	授業のコマごとに指定する。また、担当者によってはレジュメの配布を行う。				

具体的な到達目標	
目標 1	切診から東洋医学的身体情報を得ることができる。
目標 2	望診から東洋医学的身体情報を得ることができる。
目標 3	問診から東洋医学的身体情報を得ることができる。
目標 4	東洋医学的診察から得た情報をもとに証をたてることができる。
目標 5	徒手検査の所見から損傷組織、疾患の推測ができる。
目標 6	MMT, ROM、腱反射、知覚検査の所見を正確に取ることができる。
目標 7	正常な画像と比較し、画像上異常なところを見つけることができる。
目標 8	その他診察に必要な検査法を体験する。
目標 9	検査所見から、患者の病態を推測することができる。

評価と試験						
前 期				後 期		
試験成績	4 5 %			4 5 %		
平常点	1 5 %	算出方法	その他の事項に記載	1 5 %	算出方法	その他の事項に記載
出席点	4 0 %	算出方法	1 欠席につき 3 点減点	4 0 %	算出方法	1 欠席につき 3 点減点
その他		算出方法			算出方法	
試験日	9 / 6、9 / 13			2 / 6、2 / 13		

※追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の実務経験	〔棟居、下宮、〕はり師きゅう師の免許取得後、教員養成施設または大学院の附属治療所にて2年間の実務経験あり。 〔棟居〕はり師きゅう師の免許取得後、鍼灸治療院にて8年間の勤務経験あり。 〔舟木〕はり師きゅう師の免許取得後、大学院生時代に附属病院の内科にて診察補助業務を1年間行う。また、法医学教室に在籍中に2年間の血液検査等の検査業務を2年間行う。		
実務経験をいかした教育内容	本授業においては3名の教員が担当するが、東洋医学の現場や西洋医学の現場における、多様な実務経験から、はり師きゅう師の臨床上に必要な診察技術を教授することができる はり師きゅう師の臨床上に必要な診察技術の取得、また得られた検査結果から東洋医学的および西洋医学的な患者の病態の把握ができるように教育する。		

授業の内容		
回数	内容	備考
1	ガイダンス、脈の診方	
2	基本的問診事項（寒熱・飲食・睡眠・二便・情志・生活環境）	
3	その他の他の問診事項（身体各部位の症状・汗・疼痛・女性・既往歴・家族歴）	
4	脈診（脈差診）の方法、所見を習得する。	
5	脈診（脈状診）の方法、所見を習得する。	
6	脈診からの証立て。	
7	舌診の方法、所見を習得する。	
8	舌診からの証立て。	
9	傷寒論系腹診・難経十六難腹診の方法、所見を習得する。	
10	腹診からの証立て。	
11	募穴診の方法、所見を習得する。	
12	原穴診・要穴切穴の方法、所見を習得する。	
13	切経 上肢の方法、所見を習得する。	
14	切経 下肢の方法、所見を習得する。	
15	経絡の異常の判断について。	
16	背候診の方法、所見を習得する。	
17	前期試験	
18	前期試験	
19	全体望診、顔面診の方法、所見を習得する。	
20	爪甲診の方法、所見および皮部反応の診方、所見を習得する。	
21	四診合参	
22	四診合参	
23	ガイダンス、徒手検査（頭部神経根での神経の圧迫の確認）	
24	徒手検査（胸郭出口部での神経の圧迫の確認）	
25	徒手検査（肩関節周囲の靭帯の損傷の確認）	
26	徒手検査（上腕二頭筋部、肘関節付近筋・腱損傷の確認）	
27	徒手検査（腰部神経根での神経の圧迫の確認）	
28	MM T	
29	徒手検査（股関節、仙腸関節付近の筋の障害、神経の圧迫の有無の確認）	
30	知覚検査、腱反射（上腕部、膝、足関節部）	
31	徒手検査（膝関節部の靭帯、半月板損傷の有無の確認）	
32	MM T	
33	徒手検査（足関節周囲の腱の損傷の確認）、徒手検査の復習	
34	ROM（肩関節）	

35	ROM（肘関節、手関節）
36	ROM（股関節）
37	画像検査の原理と見方（レントゲン、CT、MRI の見方）
38	画像検査の原理と見方（レントゲン、CT、MRI の見方）
39	聴覚検査（リンネ、ウェーバー）、脳神経系の検査
40	血液検査所見の理解
41	血圧測定
42	ROM（頸部、腰部）
43	臨床推論
44	臨床推論
45	後期試験
46	後期試験
47	総合復習

その他の事項

【試験について】

前期試験、後期試験ともに試験の合格を以て試験成績の45%に換算します。不合格の場合は0点となります。

なお、試験の補助として授業担当外の教員が入ることがあります。

【平常点について】

実技道具や実習着忘れ 1回につき2点減点

無断欠席・遅刻 1回につき2点減点

授業中の無駄な私語や教員の指示に従わない場合 1回につき5点減点

【注意事項】

実習着を忘れた場合、授業の見学については許可するが、実技への参加は認めません。（欠席扱いとなります。）

専 門 分 野

(鍼灸実技Ⅰ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	9 0 時間	実施時間数	9 6 時間
担当教員	舟木宏直 / 棟居清峰 / 金井 優也 / 高橋 佑輔				
授業形態	実 習	教 室	第 1 実技室		
授業目的	東洋医学的理論に基づく鍼灸施術を行うためには、弁証に応じた選穴や状態に応じた刺鍼・施灸方法を選択する必要がある。一方、現代医学的理論に基づく鍼灸施術を行うためには、筋肉や神経に対して適切な刺鍼・施灸方法の選択が求められる。そのため、本授業では両アプローチに必要な知識、技術を養い、臨床現場における施術のための実践力を身に着ける。				
教 科 書	教科書は特に指定しない。適宜プリントを配布する。				

具体的な到達目標	
目標 1	目的の深度、角度にステンレス鍼を刺入することができる。
目標 2	安全で正確に交互施灸を行うことができる。
目標 3	弁証に応じた要穴の選択および配穴ができる。
目標 4	弁証に応じた刺鍼・施灸方法の選択ができ、実践することができる。
目標 5	施術を対象とした筋肉や神経の位置を体表面から推察することができる。
目標 6	筋肉や神経へ施術するための経穴が選択できる。
目標 7	筋肉や神経へ施術するための刺鍼・施灸方法の選択ができ、実践することができる。
目標 8	衛生的な施術をすることができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	45%		55%		
平常点	15%	算出方法	その他の事項に記載	15%	算出方法
出席点	40%	算出方法	1 欠席につき 3 点減点	30%	算出方法
その他	算出方法		算出方法		
試験日	7/16、7/18、7/23、7/25		12/17、1/14		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	〔舟木〕鍼灸師の免許取得後、大学院生時代に付属治療所にて 2 年間の実務経験あり。 〔高橋、金井、棟居〕鍼灸師の免許取得後、教員養成科時代に付属治療所にて 2 年間の実務経験あり。 〔棟居〕鍼灸師の免許取得後、鍼灸治療院にて 8 年間の勤務経験あり。 〔金井〕鍼灸師の免許取得後、鍼灸治療院にて 2 年間の勤務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸師にとって必要な東洋医学的理論に基づく治療配穴や刺鍼および施灸方法とその刺激の調整について教育する。 また、西洋医学理論に基づく筋肉や神経に対して、適切な鍼の深度と角度で施術ができ、必要に応じて施灸をすることができるよう教育する。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	ガイダンス、刺鍼および施灸技術の確認	
2	六淫（風淫・寒淫）に対する鍼灸実技	
3	基礎実技（ステンレス鍼による刺鍼および交互施灸の指導）	
4	六淫（暑淫・湿淫）に対する鍼灸実技	
5	基礎実技（ステンレス鍼による刺鍼および交互施灸の指導）	
6	六淫（燥淫・火淫）に対する鍼灸実技	
7	基礎実技（ステンレス鍼による刺鍼および交互施灸の指導）	
8	気血弁証（気弁証）に対する鍼灸実技	
9	後頸部の筋（頭板状筋、肩甲挙筋）に対する刺鍼	
10	気血弁証（血弁証）に対する鍼灸実技	
11	肩背部の筋（棘上筋、棘下筋、小・大円筋）に対する刺鍼および腱板疎部周囲の施灸	
12	臓腑弁証（肝の弁証）に対する鍼灸実技	
13	肩背部の筋（僧帽筋）に対する刺鍼と施灸、摘み押手による肩井穴刺鍼	
14	臓腑弁証（肝の弁証）に対する鍼灸実技	
15	前胸部の筋（小円筋）と肩関節前面（上腕二頭筋長頭腱）に対する刺鍼	
16	前頸部の筋（胸鎖乳突筋、斜角筋）に対する刺鍼	
17	臓腑弁証（脾の弁証）に対する鍼灸実技	
18	肩こりを有する患者への診察と鍼灸施術	
19	臓腑弁証（脾の弁証）に対する鍼灸実技	
20	肩背部に対する座位でのアプローチ	
21	臓腑弁証（肺の弁証）に対する鍼灸実技	
22	基礎実技の確認	
23	臓腑弁証（腎の弁証）に対する鍼灸実技	
24	顔面部の筋（咬筋、外側翼突筋、側頭筋）に対する刺鍼	
25	臓腑弁証（腎の弁証）に対する鍼灸実技	
26	前期試験1（上半身の筋へのアプローチ）	
27	前期試験2（弁証に基づくアプローチ）	
28	前期試験1（上半身の筋へのアプローチ）	
29	前期試験2（弁証に基づくアプローチ）	
30	基礎実技（ステンレス鍼による刺鍼および交互施灸の指導）	
31	外感病・内傷病に対する鍼灸実技（総合復習）	
32	東洋医学的診察と気血津液弁証に対する治療（総合復習）	
33	腰部の筋（腰方形筋、腰部多裂筋、腰腸肋筋）に対する刺鍼、施灸	
34	東洋医学的診察と気血津液弁証に対する治療（総合復習）	

35	東洋医学的診察と臓腑弁証に対する治療（総合復習）
36	東洋医学的診察と臓腑弁証に対する治療（総合復習）
37	腰部の筋（腰方形筋、腰部多裂筋、腰腸肋筋）に対する刺鍼、施灸
38	股関節周囲の筋（大腿筋膜張筋、中殿筋、小殿筋）に対する刺鍼、施灸
39	股関節周囲の筋（腸腰筋）に対する刺鍼、腰痛患者に対する診察と刺鍼・施灸
40	腰痛患者に対する診察と刺鍼・施灸（側臥位）
41	臀部の筋（梨状筋）と神経（坐骨神経）に対する刺鍼
42	膝痛患者への刺鍼、施灸
43	ハムストリングスに対する刺鍼
44	下腿の筋（前脛骨筋、腓骨筋）に対する刺鍼、施灸
45	下腿の筋（腓腹筋、ヒラメ筋）に対する刺鍼
46	足底筋の刺鍼、施灸
47	後期試験（下半身の筋に対するアプローチ）
48	後期試験（下半身の筋に対するアプローチ）

その他の事項

【試験について】

前期試験は、舟木先生の授業範囲と棟居先生の授業範囲の其々に対して試験を実施します。両方の試験の合格を以て試験成績の45％に換算します。後期試験は、金井先生の授業範囲の試験のみとなります。後期も試験の合格を以て試験成績の55％に換算します。

なお、試験の補助として授業担当外の教員が入ることもあります。

【平常点について】

実技道具や実習着忘れ 1回につき2点減点

無断欠席・遅刻 1回につき2点減点

授業中の無駄な私語や教員の指示に従わない場合 1回につき5点減点

【注意事項】

1年次以上に鍼や灸が正確に扱えないと事故につながります。日々の練習を怠らないようにしてください。

実習着を忘れた場合、授業の見学については許可するが、実技への参加は認めません。

【2年次の最低到達目標】

鍼：誤差±3mm以内、指定された角度に対して±10°以内

灸：指定された形、大きさ、方法にて、1分間に4壮以上

専 門 分 野

(あん摩実技Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 2
担当教員	松浦 英世				
授業形態	実 習	教 室	第 3 実技室		
授業目的	これまで習った基礎医学やあん摩・マッサージ・指圧基本術式を応用し、各疾病を学び臨床に応用した治療法を学習する。 卒業後の開業した際に患者さんに合った治療法を学習する。				
教 科 書					

具体的な到達目標	
目標1	体幹部の体表観察、触診を行い骨・筋を理解することができる。
目標2	体幹部の骨筋を理解した上で障害部位に対し適切な治療をすることができる。
目標3	主に腰殿部のスポーツ障害の発症機序を理解し適切なあん摩・手技治療を行うことができる。
目標4	臨床実習に向けて全身施術ができるようになる。
目標5	
目標6	
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	70%		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	1 回毎に欠席-2 点、遅刻-1 点	算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日	9/2 (月)		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	鍼師・灸師・按摩マッサージ指圧師の免許を有する。鍼灸治療院にて 40 数年の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床の現場において遭遇するあらゆる主訴に対する基本的な治療の方法を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	治療の概要の説明	
2	頭部の経絡と経穴を説明しあん摩実技治療	
3	頭部の按摩法と頸部伸展法	
4	頸部 頸椎および筋の位置と触診を行いあん摩実技治療	
5	頸部の坐位および側臥位のあん摩実技治療	
6	斜角筋症候群 筋と神経叢に対するあん摩実技治療	
7	肩背部の治療部位と経絡を説明しあん摩実技治療	
8	肩背部の坐位および側臥位のあん摩実技治療	
9	腰部の急性を説明しあん摩実技治療	
10	腰部の慢性を説明しあん摩実技治療	
11	腰部の側臥位および伏臥位のあん摩実技治療	
12	殿部の梨状筋と坐骨神経を説明しあん摩実技治療	
13	殿部の側臥位および伏臥位のあん摩実技治療	
14	下肢の側臥位および伏臥位のあん摩実技治療	
15	上肢の坐位および側臥位のあん摩実技治療、実技試験	
16	全身のあん摩実技復習	

その他の事項

各疾患に対し、資料に基づいて実技を学び、その後学生同士ペアーとなり実技を行う。

専 門 分 野

(マッサージ実技Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	後 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 2
担当教員	松浦 英世				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	これまでに習った基礎医学や按摩・マッサージ・指圧基本術式を応用し、 各疾病を学び臨床に応用した治療法を学習する。 卒業後の開業した際に患者さんに合った治療法を学習する。				
教 科 書					

具体的な到達目標	
目標1	体幹部の体表観察、触診を行い骨・筋を理解することができる。
目標2	体幹部の骨筋を理解した上で障害部位に対し適切な治療をすることができる。
目標3	主に腰殿部のスポーツ障害の発症機序を理解し適切なマッサージ・手技治療を行うことができる。
目標4	臨床実習に向けて全身施術ができるようになる。
目標5	
目標6	
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績			
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	鍼師・灸師・按摩マッサージ指圧師の免許を有する。鍼灸治療院にて 40 数年の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床の現場において遭遇するあらゆる主訴に対する基本的な治療の方法を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	足部 アーチの触診を説明しマッサージ実技	
2	足関節 靱帯の位置と触診を説明しマッサージ実技	
3	下腿部 ヒラメ筋と腓腹筋の位置の相違を説明しマッサージ実技	
4	膝関節 半月板と靱帯の位置と動きを説明しマッサージ実技	
5	大腿部 赤筋・白筋の説明をしマッサージ実技	
6	股関節 触診と検査法を説明しマッサージ実技	
7	殿部 深部の筋と体表の筋の説明をしマッサージ実技	
8	手部 手根骨の配列と触診を説明しマッサージ実技	
9	手関節 手関節の動きについて説明をしマッサージ実技	
10	肘関節 内側・外側の筋の相違を説明しマッサージ実技	
11	肩関節 構造とインナーマッスルの説明をしマッサージ実技	
12	手・肘肩関節の運動法	
13	足・膝・股関節の運動法	
14	下肢の伸展法	
15	上肢の伸展法	
16	復習	
その他の事項		
各疾患に対し、資料に基づいて実技を学び、その後学生同士ペアーとなり実技を行う。		

専 門 分 野

(指圧実技Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 4
担当教員	小濱 公次				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	前期：1年時同様に基本操作法（伏臥位、側臥位、仰臥位、座位）の指導を行う。				
	後期：随所に理論を加味し、理論を深めると共に、理論と実技（学と術）が遊離しないよう配慮しつつ、基礎的学習・				
	正しい操法の修得に重点を置いた授業を行う。				
教科書	安全かつスムーズに基本操作を行えるようになる。また体傾荷重による最大限の加圧力を引き出せる体の使い方がで				
	きるようになる。				
教科書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標 1	指圧に関する理論を説明できる。
目標 2	安全に操作する方法を説明できる。
目標 3	側臥位・仰臥位・座位についての実技内容を安全に行うことができる。
目標 4	側臥位・仰臥位・座位についての実技内容を手順通り行うことができる。
目標 5	各人にとって体傾荷重による最大強度の加圧ができるようになる。

評価と試験						
前 期				後 期		
試験成績	6 0 %（実技試験）			6 0 %（実技試験 40%、筆記試験 20%）		
平常点	1 0 %	算出方法	その他の事項に記載	1 0 %	算出方法	その他の事項に記載
出席点	3 0 %	算出方法	1 欠席毎に 2 点減点	3 0 %	算出方法	1 欠席毎に 2 点減点
その他		算出方法			算出方法	
試験日	7/24			実技試験：11/13 筆記試験：12/4		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験	鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師の免許を有する。鍼灸接骨院で 2 年、自宅開業で 17 年の臨床経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	実際の臨床における患者対応や頻度の高い疾患・症状へのアプローチの方法などを盛り込みながら指導を行う。		

授業の内容		
回数	内容	備考
1	伏臥位の総復習	
2	伏臥位（前半）の通し練習×2セット	
3	側臥位（1） 上肢操作（上腕の握り圧、前腕の母指圧、手の操作、上肢の引伸圧）	伏臥位練習
4	“ 頸部操作（3点母指圧、頸側の母指指紋部圧、頸側の掌圧）	伏臥位練習
5	“ 背部操作、腰部捻転（運動法）	伏臥位練習
6	側臥位（2） 肩関節周囲操作（運動法、回転法）	伏臥位練習
7	“ “ （肩甲骨引上げ、腋窩押圧、肩甲骨内側縁母指圧）	伏臥位練習
8	“ “ （肩上部母指圧）	伏臥位練習
9	“ 背部操作（二側線外両母指圧、腸骨上縁3点圧）、臀部操作	伏臥位練習
10	“ 下肢操作、腰部捻転（矯正法）	伏臥位練習
11	側臥位の総復習	伏臥位練習
12	仰臥位 胸部操作、腹部操作	伏臥位練習
13	“ 腹部操作	伏臥位練習
14	“ 下肢操作	伏臥位練習
15	前期末実技試験 試験対象者以外は伏臥位（前半）の反復練習	
16	床での操作 伏臥位～側臥位	
17	試験後の総評	
18	前期試験フィードバック	
19	仰臥位 顔面操作	〔理論〕基本操作法の意義
20	座 位 頸部操作	〔理論〕指圧操作の大別
21	“ 運動操作	〔理論〕指圧の生体作用機転
22	伏臥位（後半） 肩上部操作、上肢操作、肩甲骨内側縁	〔理論〕押圧の分析2
23	“ 一・二・三側線両母指圧、腰側線、仙骨孔両母指圧	〔理論〕圧法定義
24	“ 下肢操作	〔理論〕指掌の使い方
25	側臥位（1） 全操作	伏臥位練習
26	側臥位（2） 全操作	伏臥位練習
27	仰臥位 全操作	伏臥位練習
28	後期実技試験 試験対象者以外は、伏臥位（後半）の反復練習	
29	床での操作 全操作	
30	後期筆記試験 筆記試験60分、実技練習30分	
31	試験後の総評	
32	後期試験フィードバック	

その他の事項

平常点対象事項 1回注意ごとに1点減点とする

○実習着・上履き

- ・清潔であること
- ・規定のものを着用

○身だしなみ

- ・実習着のボタン、袖、裾
- ・上履きの踵
- ・腕時計、装飾品（指輪、ピアス、リストバンド等）
- ・マニキュア、過度の化粧・香水
- ・髪色、髪型（長髪は肩にかからないように束ねる）
- ・ひげ（見苦しくないよう整える）
- ・爪（衛生的に短く切る）

○忘れ物

○授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻

専 門 分 野

(臨床実習Ⅰ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	180	実施時間数	186
担当教員	川口/森/舟木/佐藤/棟居/高橋/下宮/上田				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	施術者としての自覚を持ち、安全性を十分に考慮した上で施術ができるようになる。 「東洋医学的」「現代医学的」両方の側面から情報収集を行い、かつ東洋医学的病態把握ができるようになる。 授業で学んだ検査や四診を活用し、患者の病態を把握できるようになる。 教員の治療方針を理解し、安全かつ基本に基づいた手技と鍼灸施術を適切な刺激量で行えるようになる。				
教 科 書	平成31年度 臨床実習の手引き				

具体的な到達目標	
目標 1	施術者としての自覚を持ち、臨床実習に積極的に参加することができる。
目標 2	東洋医学的所見を中心に病態把握を行う。
目標 3	現代医学的所見により、客観的な情報の収集ができる。
目標 4	あま指では各手技の一連の流れを安全に行うことができ、鍼灸では必要経穴や指定する経穴の取穴ができ、指示通りに施鍼、施灸ができる。
目標 5	教員の治療方針を理解し、安全かつ基本に基づいた手技と鍼灸施術を適切な刺激量で行えるようにする。
目標 6	安全かつ適切な対処や施術ができる。

評価						
前 期				後 期		
平常点	なし	算出方法	後期と合算で算出	15 点	算出方法	その他の事項に記載
出席点	なし	算出方法	後期と合算で算出	20 点	算出方法	その他の事項に記載
フロント施術	なし	算出方法	後期と合算で算出	20 点	算出方法	その他の事項に記載
臨床試験	なし	算出方法	後期と合算で算出	45 点	算出方法	その他の事項に記載
試験日	臨床試験はき（2/8）臨床試験あま指（2/15）					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	〔舟木・森〕鍼灸師の免許取得後、大学院生時代に付属治療所にて2年間の実務経験あり。 〔松尾〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて2年間の臨床経験あり。 〔佐藤〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。 〔棟居〕鍼灸師の免許取得後、鍼灸治療院にて8年間の勤務経験あり。 〔上田〕あん摩マッサージ指圧師、はり師・きゅう師免許を有する。自宅開業、治療院勤務経験あり。 〔西田、高橋、金井〕鍼灸師の免許取得後、教員養成科時代に付属治療所にて2年間の実務経験あり。 〔森・舟木・松尾・佐藤・棟居・上田〕本校附属治療所で3年以上の実務経験あり。 〔金井〕鍼灸師の免許取得後、鍼灸治療院にて2年間の勤務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	(鍼灸) 鍼灸師にとって必要な東洋医学的理論に基づく治療配穴や刺鍼および施灸方法とその刺激の調整について教育する。 また、西洋医学理論に基づく筋肉や神経に対して、適切な鍼の深度と角度で施術ができ、必要に応じて施灸をすることができるよう教育する。 (あん摩マッサージ指圧) あん摩マッサージ指圧における基本手技を必要に応じて施術ができるように教育する。

授業の内容		
回数	内容	備考
1 ～ 93	来所患者に対し、教員管理のもと施術を行う。	
成績評価		
<施術評価> * 確認試験（はき）7/16～7/19 授業時間で実施 確認試験（あま指）4/15～4/26 授業時間で実施 あま指5月1日、鍼灸10月1日以降に不合格であった場合は、それ以降の期間で臨床実習が行われた回数に応じた減点が行われる。 あま指の施術回数については、5月1日以降からカウントする。 鍼灸の施術回数については、10月1日以降からカウントする。 * 全コマ終了時のフロント施術回数がクラスのフロント施術回数に対し75%未満の者に関しては、臨床実習の評価がでないものとする。 本科については、あま指（1種）とあま指＋鍼灸（2種）のどちらも75%以上をクリアすることが条件となる <平常点> ・日々の臨床実習に臨む姿勢（身だしなみ、忘れ物など） ・ポートフォリオの提出状況 ・「欠席届（欠課・遅刻）」の提出（当日の場合は事前の電話連絡） ・令和元年7月、9月の欠課、令和2年1月以降の欠課 <出席点> ・出席が3/4に満たない場合は加点なし（1回の欠課で1～2点の減点となる） <試験成績> ・臨床試験 不合格の場合は加点なし		

専 門 分 野

(取穴実技Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0 時間	実施時間数	3 2 時間
担当教員	棟居 清峰				
授業形態	実 習	教 室	第 1 実技室		
授業目的	臨床では正確に取穴することが求められる。本授業では各経脈の中で指標となる経穴、主要な経穴（臨床実習ガイドライン 東洋療法学校協会編、国家試験出題基準 東洋療法研修試験財団編）が正確に取穴できることを目的とする。取穴に際して指標となる骨、筋、解剖学的部位等を理解し、骨度法、同身寸法を用いて正確に取穴できるよう学習する。				
教 科 書	新版『経絡経穴概論』（東洋療法学校協会・日本理療科教員連盟編）医道の日本社				

具体的な到達目標	
目標 1	各経脈の指標となる経穴、主要な経穴が正確に取穴できる。
目標 2	取穴に必要な骨度法、同身寸法が説明できる。
目標 3	取穴する際、基準となる骨、筋、解剖学的部位が説明できる。
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	5 0 %			
平常点	2 0 %	算出方法	その他の事項に記載	算出方法
出席点	3 0 %	算出方法	1 欠席につき 3 点減点	算出方法
その他		算出方法		算出方法
試験日	7 月 1 9 日、7 月 2 6 日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験				
実務経験	有	☒	無	☐
教員の实務経験	鍼灸免許を有する。鍼灸治療院で 8 年間の臨床経験あり。			
実務経験をいかした教育内容	臨床実習・実技授業においても正確に取穴できるように授業を行う。また臨床に遭遇しやすい疾患に対する治療穴の取穴も行う。			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	オリエンテーション、足の太陽膀胱経の所属経穴に対する取穴。取穴に必要な体表指標を学ぶ。	
2	足の太陽膀胱経の所属経穴に対する取穴。取穴に必要な体表指標を学ぶ。	授業内容の復習
3	足の太陽膀胱経の所属経穴に対する取穴。取穴に必要な体表指標を学ぶ。	授業内容の復習
4	足の少陰腎経の所属経穴に対する取穴。取穴に必要な体表指標を学ぶ。	授業内容の復習
5	足の少陰腎経の所属経穴に対する取穴。取穴に必要な体表指標を学ぶ。	授業内容の復習
6	手の厥陰心包経の所属経穴に対する取穴。取穴に必要な体表指標を学ぶ。	授業内容の復習
7	臨床に遭遇しやすい疾患（運動器・循環器疾患）に対する治療穴を取穴。	授業内容の復習
8	手の少陽三焦経の所属経穴に対する取穴。取穴に必要な体表指標を学ぶ。	授業内容の復習
9	足の少陽胆経の所属経穴に対する取穴。取穴に必要な体表指標を学ぶ。	授業内容の復習
10	足の少陽胆経の所属経穴に対する取穴。取穴に必要な体表指標を学ぶ。	授業内容の復習
11	足の少陽胆経の所属経穴に対する取穴。取穴に必要な体表指標を学ぶ。	授業内容の復習
12	臨床に遭遇しやすい疾患（眼科疾患・消化器疾患）に対する治療穴を取穴。	授業内容の復習
13	足の厥陰肝経の所属経穴に対する取穴。取穴に必要な体表指標を学ぶ。	授業内容の復習
14	前期試験	
15	前期試験	
16	要穴の取穴（総合復習）	授業内容の復習
その他の事項		
【実技試験について】 試験の合格を以て試験成績 50 % に換算する。 【平常点について】 実技道具や実習着忘れ 1 回につき 2 点減点 無断欠席・遅刻 1 回につき 2 点減点 課題の未提出 1 回につき 2 点減点 授業中の無駄な私語や教員の指示に従わない場合 1 回につき 5 点減点。		

専 門 分 野

(物 理 療 法) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	2 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	松尾 卓				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム ※ 一部、実技室を用いる。		
授業目的	物理療法とは物理的なエネルギー（熱・水・光・電気・徒手）を外部から人体に応用し、疼痛の緩和、循環の改善、リラクセーション等の目的で使用する治療法である。本来は理学療法の分野に属する治療法であるが、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師が病院・診療所等にて勤務する際は、これらの業務を兼務することも多い。 そのため、本授業においては、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師が関わる可能性の高い物理療法について、その目的や作用機序、禁忌等について学ぶ。				
教 科 書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標 1	各種温熱療法を「熱の深達度」「熱の移動様式」「エネルギー形態の違い」によって分類することができる。
目標 2	温熱療法の目的、適応、作用機序、禁忌を説明することができる。
目標 3	寒冷療法の目的、適応、作用機序、禁忌を説明することができる。
目標 4	水治療法の目的、適応、作用機序、禁忌を説明することができる。
目標 5	機械的療法の目的、適応、作用機序、禁忌を説明することができる。
目標 6	温泉療法の目的、適応、作用機序、禁忌を説明することができる。
目標 7	光線療法の目的、適応、作用機序、禁忌を説明することができる。
目標 8	電気刺激療法の目的、適応、作用機序、禁忌を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	8/31(土)		

★ 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師、理学療法士の免許を有する。 鍼灸あま指整骨院にて 2 年間の臨床経験、本校附属治療所にて 6 年間の実務経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	病院・診療所等にて広く用いられる物理療について、その目的や作用機序、禁忌等について学び、一部の療法については簡易的な実習を行う。		

授業の内容		
回数	内容	備考
1	ガイダンス、物理療法総論	
2	温熱療法① 温熱療法総論、伝導熱療法（ホットパック）	
3	温熱療法② 伝導熱療法（パラフィン浴）、輻射熱療法（赤外線）	
4	温熱療法③ 温熱療法実習	
5	温熱療法④ エネルギー変換療法（極超短波・超音波）	
6	寒冷療法	
7	水治療法	
8	温泉療法	
9	機械的療法① 牽引療法	
10	機械的療法② ストレッチ	
11	光線療法	
12	電気刺激療法① 治療的電気刺激（TES）	
13	電気刺激療法② 経皮的電気神経刺激（TENS）	
14	疾患別物理療法プログラムの実際	
15	前期試験解説 鍼灸・あま指と物理療法の関わり	
その他の事項		
実習を行う場合は、前週に使用教室と服装を伝達します。		